

このような初期の取組から、特に、質問に対する詳しい回答がメールで送られてきたときの喜びを契機に、自分も全国の小学生と友達になりたいという思いで、メールによる交流を体験してみようとする子供が増えてきた。

さらに、子供たちは、顔の見えない相手に対し、心の通った文章を送って交流を深めていこうという気持ちから、「ネチケット」といわれるメール活用上のマナーも自然に身に付けていったのではないだろうか。

(2) 授業での活用状況

学年 教科	単 元 内 容 等	インターネット活用の効果
4年 社会	「雪国の暮らし」	○ 現地の小学生の手によってまとめられたホームページにより、現在、雪国の人々の暮らし方や様子がずいぶん様変わりしていることに気付いた。
5年 社会	「流通のしくみ」	○ メールによる商品注文により、興味をもった青森県のりんごを授業中に宅配してもらったときの驚きや感動が、学習への意欲や集中力となって表れた。
4年 国語	「方言調べ」	○ いくつかの学校とそれぞれの方言について教え合う形でたくさんの資料を簡単に集めることができた。音声や画像を伴い、使う場面や使い方が分かるので興味・関心が高まった。
5年 理科	「天気の変化」 「メダカの育ち方」	○ 天気図や気象情報などの画像をリアルタイムに観察でき、天気の変化を理解することができた。また、桜前線を調べる際に、日本列島各地の違いが容易に比較でき、理解しやすかった。 ○ 教科書や飼育しているメダカの情報だけでなく、卵からメダカが誕生するまでの経過を詳細に掲載したホームページにより、多角的な内容の濃い授業を展開することができた。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- インターネットの楽しさ、面白さを実感できるようになると、高学年の子供を中心に昼休みや放課後の時間を利用して、学習の調べものや自分の趣味嗜好に応じて、新しい情報や知識の収集にいそんでいる姿が見られるようになり、生活の中の一部としてインターネットを自由に操作し、エンジョイできるまでに成長してきたように思える。
- 図書室で図鑑を取り出して調べるように、自由自在に検索している子供の姿から、調べ学習にとっては、今までにない大きな情報の宝箱を獲得したとも言えそうだ。
- あるひとつのことがらを調べようと進めていくうちに、関連することがらもある程度リンク